

健康のしおり

皆さんの健康のお役に立つように、このようなパンフレットをつくりました。
是非ご覧ください。

ピロリ菌と胃がん

胃がんは年に5万人が亡くなるといわれており、その原因は胃に潜み炎症を起こす細菌－ピロリ菌が指摘されています。

ピロリ菌の正式名称はヘリコバクター・ピロリ。胃粘膜を覆う粘液に潜り込む細菌です。一般細菌は胃酸により胃内では生きられません。ピロリ菌は体内の尿素を分解してアンモニアを作り、胃酸を中和することで、胃内で生存することができます。

ピロリ菌は胃潰瘍・十二指腸潰瘍の原因とされており、公的医療保険が認められています。ピロリ菌除去によりかなり高率に潰瘍の再発の予防が可能です。

ピロリ菌と胃がんに関しては2年前に発表された早期胃がんの患者で内視鏡で胃がんを除去した後にピロリ菌の除菌をした人は除菌しなかった人に比べ、胃がんの再発率が三分の一に減少したという研究結果がでました。その後今年の六月に胃 MALT リンパ腫・特発性血小板減少性紫斑病・早期胃がんの患者で内視鏡治療でがんの切除術を受けた人の再発防止に対象が広げられました。ピロリ菌を除菌することで胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発率が低くなる、胃がんの発生が少なくなり、今後は胃がんの予備軍である慢性炎症患者に適用されることが期待されます。

ピロリ菌は感染した人の口や便から出た者が何らかの原因で口から侵入し、主に幼少期に感染します。菌を洗い流す上下水道が十分に整わない時代に幼少期を過ごした60代以上は7-8割が感染しており、20代は1割程度です。

ピロリ菌の検査は内視鏡を使う方法と使わない方法があります。内視鏡を使う方法は培養法・迅速ウレアーゼ法・鏡検法があり、内視鏡を使わない方法は採血（抗体法）・便検査（便中抗原法）・吐く息（尿素呼気試験）により調べる方法があります。

除菌方法は抗生剤2剤を1週間内服する方法で入院の必要もありません。1ヶ月以上経過した後に除菌できたかを確認します。除菌成功率は約8割です。除菌に1度失敗しても別の薬で除菌が可能です。副作用は下痢・軟便などがありますが軽度の場合内服を継続してください。除菌後胃酸が活発になるので1割程逆流性食道炎がおこります。逆流性食道炎のある方は食道炎が悪化することがあります。抗生剤の副作用のある方・逆流性食道炎のある患者さんなどピロリ菌を除菌すべきかは症状・胃の状況にもよるのでかかりつけの先生と相談してください。